

若手養豚後継者の経営再建支援

東伯農業改良普及所

1. 取組の背景

畜産物の安定供給を図るため県内各地に整備された養豚団地では、国産豚肉価格の低迷と輸入飼料価格の高騰による経営不振や高齢化などで廃業する農家が多く、空洞化あるいは廃止に至ったものも少なくない。

管内のある養豚団地では、他の農家の廃業で未利用となった空き豚舎を利用して若手養豚後継者が規模拡大したものの、管理不足のため経営不振となり、制度資金を借入れて経営再建に取り組むこととなった。

このため、平成21年から関係機関とともに経営改善の重点指導を実施した。

2. 活動内容

家畜保健衛生所とともに経営技術検討会を3回開催し、前年生産成績の低下要因を分析、妊娠鑑定などの繁殖成績向上対策を指導した。

また、資金繰りが悪化していたため制度資金の借入れを検討し、経営改善計画の作成を支援した。

制度資金の地域指導班として半期ごとに生産成績を分析、経営検討会を開催して母豚の適正管理など繁殖成績向上対策を指導した。

畜舎老朽化による施設の故障が相次いで発生したため、随時、関係機関とともに畜舎施設及び畜舎周辺的环境整備を支援した。

J A、系統飼料会社の指導者を交え経営技術検討会を毎月開催し、関係者が施設整備に伴う資金繰り、生産成績や収支状況などを把握することで共通認識のもとに飼養管理等の改善指導を継続実施している。



写真1 母豚舎の破損カーテン



写真2 コンパネによる破損カーテンの補修

3. 具体的な成果

(1) 繁殖成績の向上

母豚台帳を作成、母豚の計画的な淘汰や早期離乳、未受胎豚の早期摘発などの適正な管理を徹底し、年間分娩回数が2.20回、分娩率が80.2%に向上した。

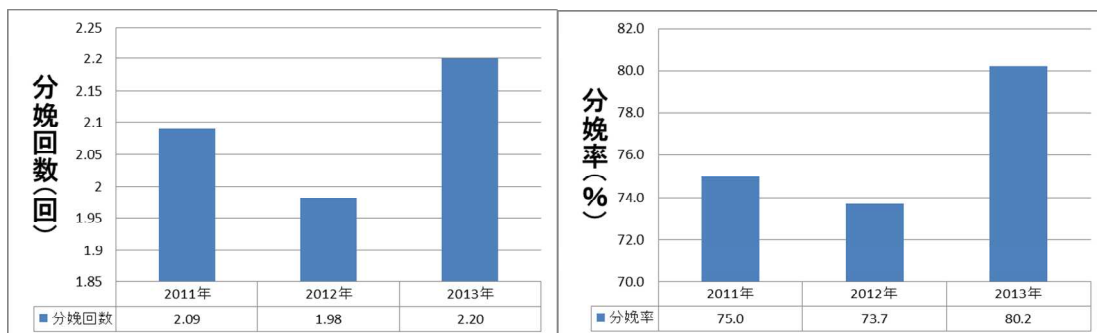


表1 分娩回数の推移

表2 分娩率の推移

(2) 肥育成績の向上

ワクチンの適期接種や飼養密度の適正管理を徹底し、肥育日数が175.1日、肥育事故率が3.8%、肥育要求率が3.02、農場要求率が3.58に向上した。

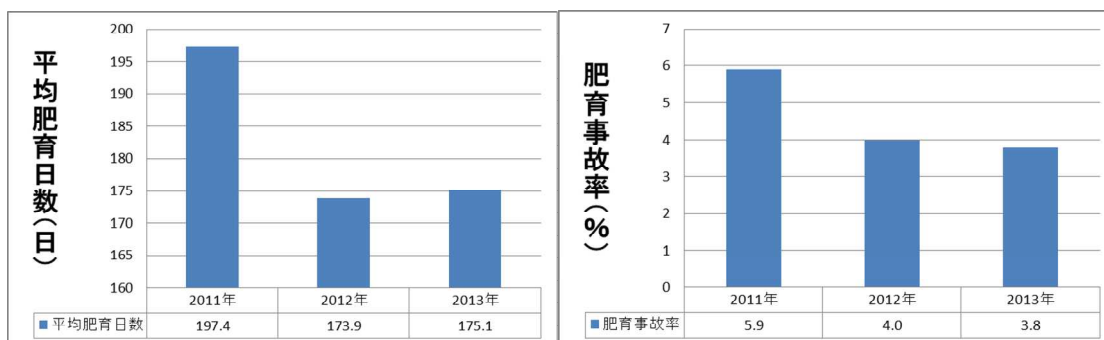


表3 平均肥育日数の推移

表4 肥育事故率の推移



表5 飼料要求率の推移

注) 肥育要求率：肉豚1Kgの増体に要した肉豚の飼料消費量
 農場要求率：肉豚1Kgの増体に要した農場全体の飼料消費量

(3) 経営意欲の高揚と償還財源の確保

生産成績、簿記の適正な記帳を徹底し、自己分析により未払金を削減、償還財源を確保している。

また、暑熱対策、防寒対策など、飼養管理環境の改善整備を積極的に実施している。

4. 農家等からの評価・コメント（北栄町A氏）

指導を受け防暑対策を実施。夏から秋にかけて食下量の低下で削瘦していた離乳母豚が見受けられなくなった。発情回帰日数の延長傾向は解消されていないので、今後も対策を徹底したい。

5. 現状・今後の展開等

母豚の産歴構成が適正となり、繁殖、肥育成績ともに当面の目標に到達した。

母豚一腹当たりの総産子数 10.7 頭、正常産子数 9.9 頭、離乳頭数 9.5 頭とわずかに目標未達、母豚一頭当たりの離乳頭数 20.3 頭、出荷頭数 20.0 頭も目標未達成であった。

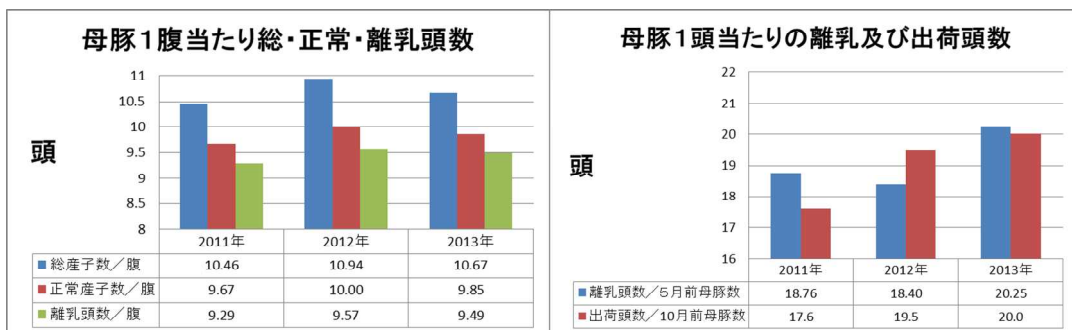


表6 母豚一腹当たり頭数の推移

表7 母豚一頭当たり頭数の推移

夏、冬分娩と受胎で死産頭数の増加と産子数減少の傾向があることから、これまでの適正な管理を維持し、防暑、防寒対策をさらに徹底することで出荷頭数の増加が見込まれる。

施設の老朽化で補修を必要とする設備も多いため、資金繰りを見ながら飼養環境を改善し、母豚一頭当たりの出荷頭数を増加させることで安定経営となるよう、指導を継続する。

(執筆者： 徳田 達也)